

ゆっくるも通信

令和7年 6月18日 第16号
留萌市教育委員会
教育支援センター「ゆっくるも」

「ゆっくるも農園」農業体験学習！



昨年度に引き続き「ゆっくるも農園」農業体験学習を実施しました。農業体験を通して食物を生産する喜びや土と親しむ経験をしてもらいたい、また、秋には収穫した作物を使った調理実習を行って、収穫の喜びを味わわせたいと考えています。

第1回目の活動“種・苗植え活動”は、5月23日（金）に実施しました。作物を栽培する場所として、留萌市市民農園（東雲町3丁目）の一画をお借りしました。昨年度は指導員と子どもたちで剣先スコップを使って畠興しから始めましたが、今年は事前に指導員の方で済ませておいたので、「ゆっくるも農園」に到着してからすぐにみんなで種や苗植えを行うことができました。今回栽培を行う作物は、じゃがいも・さつまいも・玉ねぎ・枝豆・ミニトマトです。枝豆だけ種から植えました。さつまいもやミニトマトは昨年より苗の数を増やしてみました。その分たくさん収穫ができるといなあと思っています。



みんなで協力をして、準備していたすべての苗と種を植え終えて、みんなでたくさんの水をあげて終了！

これから月に1～2回の草取りを兼ねて植物の生育状況を確認し、秋の収穫時期を迎えたら、採れた野菜を使って調理実習や焼き芋作りをして、みんなで食べたいと思っています。たくさんの作物が実ればいいなあと願っているところです。

留萌市教育支援センター「ゆっくるも」在籍児童生徒数

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男		1					1	2	1	4
女						1		2	2	6
計	0	1	0	0	0	1	1	4	3	10

R7.6.15現在

学びや支援にアクセスできない 子どもたちをゼロに！

留萌中学校では昨年度より「不登校対策総合実践事業」の指定を受けて、不登校が生じない学校づくりの推進が進められています。学校になじめない生徒についてはその子のアセスメントをもとに個々に「児童生徒理解シート」を作成し、それに基づいた指導・援助の方針を校内で検討しています。また、校内に「プラスワンルーム」（校内教育支援センター）を設置し、自分の学級に入りづらい子どもたちが学習の遅れやその不安を解消し、早期に学習や進学に関する意欲を回復できるよう、落ち着いた空間の中で自分のペースで学習・生活できるスペースを設置・活用しています。

先日、留萌中学校の「第1回不登校対策会議」に出席させていただきました。その時には留萌中の先生方の他にSCやSSW、そして私たち「ゆっくるも」の指導員等も加えていただき、「児童生徒理解シート」をもとに、学校になじめない子どもたちの今後の支援策についての話し合いが行われました。今回の会議では、どちらかと言えば学校に行けない子どもたちというよりは、学校には何とか行くことができるけれど教室に入りづらい子どもたちの支援についてが話し合いの中心となりました。

文科省が提示している「不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方」では、「児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること」と述べられています。不登校が長期化することによって本来は享受できるはずだった様々な教育活動が受けられないということをできるだけ最小限に食い止めるため、不登校のきっかけや継続理由に

応じて、適切な支援や働きかけを行う必要があります。各学校においては「既存の学校教育になじめない児童生徒については、学校としてどのように受け入れていくかを検討し、なじめない要因の解消に努める必要」があるとされています。心因性の不登校の児童生徒への対応については慎重さが求められる場合もありますが、様々な可能性を視野に入れて児童生徒の状況を的確に把握し、その子に適した対応方針を決定していく必要があるということだと思います。

今回の留萌中学校の取組が市内小中学校すべてに共有されて、学校になじめない児童生徒がゼロに近づいていくことを期待しています。

- 学校に行きたくても行けない子どもたちのことについて、教育支援センター「ゆっくるも」にいつでもご相談ください。

(TEL 090-9005-5338)

